

国立大学法人新潟大学 中期目標

平成16年5月26日提示

平成18年3月30日提示

平成20年3月25日提示

国立大学法人新潟大学 中期目標

(前文) 大学の基本的な目標

新潟大学は、高志の大地に育まれた敬虔質実の伝統と世界に開かれた海港都市の進取の精神に基づいて、自律と創生を全学の理念とし、教育と研究を通じて地域や世界の着実な発展に貢献することを全学の目的とする。

この理念の実現と目的の達成のために、

1. 教育の基本的目標を、精選された教育課程を通じて、豊かな教養と高い専門知識を修得して時代の課題に的確に対応し、広範に活躍する人材を育成することに置く、
2. 研究の基本的目標を、伝統的な学問分野の知的資産を継承しながら、総合大学の特性を活かした分野横断型の研究や世界に価値ある創造的研究を推進することに置く、
3. 社会貢献の基本的目標を、環日本海地域における教育研究の中心的存在として、産官学連携活動や医療活動等を通じ、地域社会や国際社会の発展を支援することに置く、
4. 管理運営の基本的目標を、国民に支えられる大学としての正統性を保持するために、最適な運営を目指した不断の改革を図ることに置く。

I 中期目標の期間及び教育研究上の基本組織

1 中期目標の期間

平成16年度から平成21年度の6年間の第1期中期目標の期間とする。

2 教育研究上の基本組織

この中期目標を達成するため、別表に記載する学部、研究科等を置くものとする。

II 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育の成果に関する目標

・教育と研究の相互作用を重視し、研究成果を教育へと還元することによって、実社会で活躍するに足る能力を有した人材を育成し、地域社会と国際社会に送り出すことを目標とする。次の3点を教育目標達成の指針とする。

- 1) 深い教養と広い視野を備え、豊かな人間性と高い倫理性を有する人材の育成
- 2) 基礎的技能と専門知識を身につけ、創意工夫と問題解決能力に富む人材の育成
- 3) 社会性と国際性を有し、社会や世界で活躍できる人材の育成

ア. 学士課程

・現代社会の諸問題への深い理解力を涵養しながら、専門的能力・知見を習得させることを図る。知の論理的側面、方法的側面及び直観的側面を鍛え、社会人・職業人として有為の人材を育成する。

・各学部は、上記の全学の教育目標に基づき、社会人・職業人として必要な基礎的能力、基礎的素養をも涵養しながら、学部固有の教育目標を達成する。

イ. 大学院課程

- ・修士課程（博士前期課程）においては、主として専門分野を修め、課題発見・探求能力を磨くことにより、高い知見と技能を有する専門職業人を養成する。
- ・博士課程（博士後期課程）においては、専門分野の修得を前提に、その関連分野の知見や視点を加えた総合的・学際的な分析能力を身につけた上で、課題設定・解決能力を磨くことにより、研究者を含む高度専門職業人を養成する。
- ・専門職学位課程においては、深い学識及び卓越した能力を培うことにより、高度の専門性が求められる職業を担う人材を養成する。

(2) 教育内容等に関する目標

- ・全学目標として、以下に掲げる資質豊かな学生を広く求める。
 - 1) 修学に適う、確固たる学力を身につけ、新しい課題に意欲的に取り組もうとする人
 - 2) 人間性を大事にし、広い視野からものごとを考えようとする人
 - 3) 地域社会や世界の様々な場面で役に立ちたいと思っている人

ア. 学士課程

- ・上記の全学目標に加え、高等学校教育の全般にわたる基礎学力を有し、当該学部の教育目標・教育内容を理解し、基礎的能力と勉学への強い意欲を有する学生を求める。

イ. 大学院課程

- ・上記の全学目標に加え、当該研究科の教育研究内容に関わる基礎学力を有し、自発的な課題探求能力や研究遂行能力を有する学生を求める。また当該研究科の専門的知見・技能を求め、社会人、留学生の受入を推進する。

(以下特に学士課程、大学院課程を分けて記載しないが、それぞれの課程に固有の事項については文中で明示する。)

- ・高等学校教育と大学教育、学士課程教育と大学院課程教育との接続性が十分に保てる体制を整えるとともに、学生が自らの学習目標に応じて効果的・効率的に履修できるように教育課程を編成する。
- ・学習効果・履修効率の向上や学習意欲の喚起を図るため、学生の多様な能力や資質、社会的背景に配慮した複数の履修方法や、教育プログラムの改善に必要かつ適切な方法を開発し、導入する。
- ・教育内容や教育方法並びに成績評価の方法や基準を予め明示するとともに、社会的にも国際的にも説明責任を果たしうる、公正で厳密な成績評価の方法を確立する。

(3) 教育の実施体制等に関する目標

- ・上記の教育目標の達成に必要な教職員を確保し、教員の専門性と学部・研究科の教育課程に応じて適切かつ柔軟に配置できる体制を整える。
- ・施設設備の自己点検・評価を踏まえ、全学的な観点からその効率的な利用を図りながら、特に、

国際化や情報化の進展，実践・実務・実験・臨床を指向する授業，きめ細かな教育指導，学生の自発的な学習に配慮して，教育環境の整備・改善を継続的に進める。

- ・教育の質の改善を図るため，教育の質に関する多元的な評価方法を確立するとともに，その評価に基づいて教育の質の向上を組織的かつ継続的に図る制度を構築する。

(4) 学生への支援に関する目標

- ・学生が自らの学習目標に応じて，効果的・効率的にカリキュラムを修得できるよう，きめ細かな学習支援体制を整備する。
- ・学部生及び大学院生の就職・進学等進路に関する方針を策定し，進路についての早期からの意識啓発を図るとともに，学生の希望に適った能力の開発や資質の向上を支援する。
- ・多様な資質・能力・社会的背景をもつ学生がそれぞれ豊かで快適な学生生活を送ることができるように，健康管理に関する支援や経済的支援等の生活支援を行う。

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

- ・学内外の研究者と連携を図りながら，基礎研究・応用研究を問わず特色ある研究，世界に卓越した先端的研究，社会的要請の高い研究，長期的視野に立つ価値ある研究，本学の地域性に立脚した研究を推進する。また，確立された分野において高い水準を保つ研究を推進するとともに，新しい研究分野を体系的に開拓する方向性を重視する。
- ・研究成果を組織的効果的に社会に還元し，地域社会の活性化や国際社会の均衡ある発展に貢献する。
- ・研究分野・方法・成果の特性や特徴を踏まえて，全学的な評価体制を整備し，適切な評価を行う。

(2) 研究実施体制等の整備に関する目標

- ・研究活動の飛躍的な活性化につながる研究体制を整えるために，新潟大学が目指す研究の基本的目標に適った分野や，実績評価の高い個人や集団に対し，重点的機動的に資源を配分する。
- ・学内外の共同研究を推進するための施設，設備を充実し，研究支援体制を整備するとともに，総合大学の特性を活かした分野横断型の研究や卓越した創造的研究の拠点形成を支援するため，学内の研究のため共用する施設等の優先的利用を図る。
- ・知的財産の積極的・持続的創出を全学共通の目標とし，本学の所有・創出する知的財産を，有効に活用する体制を整備する。
- ・評価を研究活動の見直しや発展，個々の研究者や研究集団の能力開発の好機として捉え，適切な評価方法を策定して，予算・施設・時間等の配分により研究活動の活性化につなげる方策を探る。

3 その他の目標

(1) 社会との連携，国際交流等に関する目標

- ・地域社会や国際社会が抱えている諸問題を具体的に把握し，総合大学としての多彩な教育研究活動を通して得られた成果を還元することにより，地域社会の活性化や国際社会の持続的発展に貢献する。

- ・社会貢献事業の運営上の効率化・能率化に留意しながら，自治体や企業，市民グループ等地域の実施主体と有機的な連携を図り，高大接続，生涯学習，人材養成，国際交流等の地域貢献事業を進める。
- ・大学の知的資源・施設及び地域連携機能を最大限に活用し，産官学連携や県内国公立大学との連携推進の上で中心的な役割を担う。
- ・環日本海周辺地域における学術を主導する大学として，諸外国の高等教育研究機関との人材・学術交流を進め，特に東アジア地域の文化向上や社会発展に貢献する。
- ・学生・教職員が国際化に対応できる柔軟で幅広い見識を深め，コミュニケーション能力を習得するための体制を整えて，大学の国際化を進める。

(2) 附属病院に関する目標

- ・豊かな人間性と高い倫理性を備えた医療人を育成するとともに，患者本位の医療及び患者サービスの向上を推進し，附属病院としての社会的使命を果たす。
- ・医歯学総合病院，医歯学総合研究科・脳研究所等における研究成果を反映した高度で先進的な医療，及び少子高齢化等の社会環境の変化にも対応した医療を提供する。
- ・地域の中核病院として，地域密着型医療を進め，公的診療施設としての社会的責務を果たすことにより，地域の医療水準の向上に貢献する。

(3) 附属学校に関する目標

- ・附属学校としての特長を生かし，一般校に成果を還元することができる高度な教育研究活動を行う。
- ・地域社会の要望に応え，地域社会とともに発展し，公的責任を果たす学校運営を目指す。
- ・個性と人間性に溢れ，地域社会や国際社会の未来を担う子どもを育てる。

Ⅲ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 運営体制の改善に関する目標

- ・学長のリーダーシップが十全に発揮され，機動的な大学運営が遂行される体制を整備する。
- ・学内資源は，学長のリーダーシップのもとに，業務態様に応じた評価結果を勘案し，適切に配分する。

2 教育研究組織の見直しに関する目標

- ・業務態様に応じた業績評価や社会的要請に対応して組織の見直しを行う。
- ・研究の新分野創生と教育需要の変化に対応できるよう，定員の流動化を進める。
- ・地域特性を生かして，類似の教育研究分野を有する機関との協力体制を確立し，再編を目指す。

3 人事の適正化に関する目標

- ・教職員の人事制度に関する一元的な管理・運営体制を構築する。
- ・教育・研究の将来計画に基づいて，重点領域・分野を中心に人材を効果的に配置する。
- ・教職員の処遇管理を行うため，公正・透明・適正な評価に基づく人事制度の確立を図る。

- ・教職員の能力開発を図るため、多角的な研修制度を構築する。
- ・業務の効率化・合理化を進めるとともに、人件費の適正な管理を図る。
- ・「行政改革の重要方針」（平成17年12月24日閣議決定）において示された総人件費改革の実行計画を踏まえ、人件費削減の取り組みを行う。

4 事務等の効率化・合理化に関する目標

- ・各種事務の集中化・情報化等により、事務処理の簡素化・効率化を図り、事務組織・職員配置の再編合理化を進める。

IV 財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標

- ・外部研究資金を大学における教育研究の活性化及び大学評価の重要なファクターの一つとして捉え、その導入等を積極的に進める。また、積極的な広報活動を通して社会との連携強化を図り、公開講座等の自己収入の増加に努める。

2 経費の抑制に関する目標

- ・大学運営における財務の効率化、質的改善及び行政コストの削減に向け、人件費、管理的経費等の抑制を図るシステム及び組織の整備を進める。

3 資産の運用管理の改善に関する目標

- ・施設設備は全学共通の貴重な資源であり、かつ、国民共有の資産であることから、既存施設設備の点検・評価を行い、施設設備の使用に関する長期的戦略に立って、その一元的・効率的管理を進め、有効活用を促進する。

V 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

- ・教育研究等の事業や運営について自己点検・評価を行い、その結果とともに外部評価、第三者評価による評価結果も活用し、各事業や運営の改善及び恒常的な活性化を進める。また、各事業年度の業務の見直し、事業運営の改善に役立てるとともに、基本理念や長期的な目標の点検にも活用し、次期以降の中期目標・中期計画の内容に反映させる。

2 情報公開等の推進に関する目標

- ・地域や世界に開かれた大学として、納税者や地域社会に対する説明責任を果たすため、大学の活動に関する情報を積極的に公表する。

VI その他業務運営に関する重要目標

1 施設設備の整備・活用等に関する目標

- ・施設設備は全学共通の貴重な資源であり、かつ、国民共有の資産であることから、既存施設設備の点検・評価の結果を踏まえ、既存施設の有効活用システムの構築、全学的視野に立った透明公正な資源配分等を効果的かつ計画的に進める。

- ・円滑な教育研究活動のために、施設設備の劣化等の状況把握を行い、安全性・信頼性を確保するため計画的な維持保全・修繕を実施し、施設設備の長期使用を図る。
- ・国の施策を踏まえて平成13年に策定した「新潟大学施設緊急整備5ヵ年計画」並びにその後の年次計画を着実に実施し、「新潟大学の理念・目標」の達成に即した、施設の重点的・計画的整備を図る。

2 安全管理に関する目標

- ・教職員や学生等にとって安全で快適なキャンパスを整備・維持するため、安全衛生管理体制を確立するとともに、労災事故等を防止するための措置を整備する。

3 後援会（同窓会）の組織化

- ・大学の運営に不可欠な多方面からの支持・支援を獲得するための組織を整備する。

別表（学部，研究科等）

教育研究院	人文社会・教育科学系 自然科学系 医歯学系
学 部	人文学部 教育学部 法学部 経済学部 理学部 医学部 歯学部 工学部 農学部
研 究 科	教育学研究科 現代社会文化研究科 自然科学研究科 医歯学総合研究科 保健学研究科 技術経営研究科 実務法学研究科
附置研究所	脳研究所